

第 5 回検証委員会の指摘事項への対応

検証結果の取りまとめ等について

発言・提案者	指摘事項	対応
大河内委員	アカガシラカラスバトに対する毒性試験を行わないと、アカガシラカラスバトのリスクはきちんと評価できず、今後検討が必要である。	「環境リスク評価」（資料 2-4.5(3)⑤）および「残された課題」（資料 2-5.2）に必要性について記述。
ネズミ対策検討会委員	過去の空中散布においてネズミが完全に駆除できたかどうかの確認がされていないため、再発見された際に再侵入との推測がなされるが、駆除後の確認をしっかりとやること。	「プロセスの検証」（資料 2-3.1⑤）、「残された課題」（資料 2-5.2）等に関連する記述を追加。
地域連絡会議参画団体 ネズミ対策検討会委員 大河内委員 傍聴者	報告書案の過年度の外来ネズミ類対策事業の実施経緯の「平成26年度までの成果」には、ネズミだけでなく、ノヤギ駆除による成果も含まれるなど、ネズミ対策のみによる鳥類などの回復に関する引用や記述が不適切である。ヒアリング等によりきちんと確認する必要がある。	ヒアリング等も実施して、資料 2-3.1(1)「対策事業の概要」の⑥「平成 26 年度までの成果」の項を見直し、誤った引用や誤解を招く引用・記述は削除して、全面的に修正した。
ネズミ対策検討会委員	報告書案の3.2(5)など、これまでの事業に係る課題は客観的に書くべきであり、課題と提言は分けて記述されなければならない。また、問題点についてわかりやすくなるようアンダーラインで示してはどうか。	これまでの事業に係る問題点（課題）については資料 2-3.2「コミュニケーション、島民参加手続きの必要性」に取りまとめて記述し、提言は資料 2-5「今後への提言」に集約して記述した。また、資料 2-1「委員長総括」や 3.2「コミュニケーション、島民参加手続きの必要性」の項では、アンダーラインを付し、問題点(key word)を分かりやすくした。
白石委員	環境リスクの考察において、人体への母体毒性等の表およびこの数値を引用したリスク評価は、引用元がラットのデータを外挿しており、誤解を招く可能性があるため、記述内容について再考する必要がある。	資料 2-4.5「実証試験結果を踏まえた環境リスク評価」では、表の数値を前提とした記述を全面的に見直し、誤解が生じないように、記述を改めた。

発言・提案者	指摘事項	対応
地域連絡会議参画団体 傍聴者	オガサワラノスリの二次毒性による影響について、小笠原のオカヤドカリの嗜好性から、影響が高まる可能性が考えられる。	資料 2-4.5(3)「オカヤドカリに対する影響とノスリ等捕食者への二次毒性」において、その可能性の記述を追加。
地域連絡会議参画団体 大河内委員	ウミガメは比較的古い年代から生存し、淡水のカメとは属が異なるため、ウミガメに対する試験が必要である。また、ウミガメに関する人へのリスク評価の記述は誤解を招く恐れがあるので再考してほしい。	ウミガメに対する試験の必要性については資料 2-5.2「残された課題」に記述し、ウミガメに関するリスク評価は資料 2-4.5(3)⑨「ウミガメ類に対する影響とヒトへの 2 次毒性」で誤解が生じないような記述に改めた。
ネズミ対策検討会委員	コミュニケーション不足や合意形成の問題点など、過去の意思決定プロセスにおける課題について答えが出ていない。過去のプロセスとの比較によって今後のプロセスについて説明すべきである。	過去のプロセスについて、資料 2-1.5 委員長総括「今後の提言」、資料 2-3.2「コミュニケーション、島民参加手続きの必要性」などに示し、今後のプロセス（資料 2-1.5、資料 2-5.1(7)参照）との違いを明確にした。
大河内委員	過去にネズミ対策を実施するにあたり、配慮事項のいくつかが抜けていたことが重大な問題であった。この委員会で、各非標的種に対する個別の具体的対策は示せないが、将来の対策実施者に向けて、配慮すべき事項はこれだということを示すべきである。	検討、配慮事項に関するチェックリストを作成し、資料 2-5.4「ネズミ対策を実施する上での配慮」および委員長総括に掲載した。
地域連絡会議参画団体	環境影響の模式図は分かりやすいが、実証試験結果との食い違いがあるので検討・修正が必要である。今のままでは検証結果の検証が必要になる。	委員長総括や資料 2-4.5「実証試験結果を踏まえた環境リスク評価」の項に掲載した模式図について見直しを行い、実証試験結果との整合性を図った。
ネズミ対策検討会委員	膨大な資料が与えられても、委員でさえも苦勞するため、分かりやすくするためにどこまで検証されたか、簡単な図示がほしい。委員長総括にその部分を読めば多くの人が概要を理解できるよう、実証試験結果も盛り込むべきである。	委員長総括（資料 2-1.4.(2)）に実証試験結果を示し、さらに委員長総括の概要版を作成して掲載した。